

令和7年度 浜松市道徳化研究部 第1回研修会報告

1. 日時 令和7年5月28日(水)

2. 会場 浜松市立井伊谷小学校

3. 内容



(1) 研究テーマの提案【国語科研究部長】

道徳部の今年度の研究テーマは、「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育～考え、議論する 道徳科の授業 を核に～」である。その研究テーマにおいて重要な3つの視点を提案した。

- ①自己(人間として)の生き方についての考え方を深める道徳科の授業の工夫
- ②道徳科の授業を要とし、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実
- ③個別最適な学び、協同的な学びの視点での道徳科授業づくりの工夫

(2) 指導主事講話【浜松市教育センター 指導主事】

道徳部の研究テーマを受け、「道徳科授業改善～考え、議論する道徳～」というテーマで御講話いただいた。「子供たちに問題意識を持って道徳科の授業に参加してもらうためには、自分事として捉えられるように手立てを工夫することが求められる。道徳科での話し合いは特別活動での話し合いと違い、一つにまとめない話し合いであり、広げることや深めることが大切である。子供たちが自分自身の心を拠り所に、納得できる答えを見つけていけるように、明確な意図をもって教員が話し合いをファシリテートすることが必要である」と、普段の道徳科の授業について振り返りながら、分かりやすくお話しいただいた。

4. 研修会を振り返って 事後アンケートより

道徳の答えは自分自身の心を拠り所に考えていく。答えの根拠は、自分の心だという言葉がとても分かりやすかったです。そのためには、子供たち自身が問題意識を持つことができる工夫、自分事として捉えることができる工夫が必要だと感じました。自分自身の経験を想起しながら考えられるよう、子供たちの生活とリンクさせて、教師側が意識して授業をつくっていくことが必要だと思いました。

子供たちが自分事として捉えることができるように、目の前の子供たちに合った教材に取り組みたいと思いました。そのために、年間指導計画をきちんと立てておくこと、他の教科や行事と関わりのある教材をきちんと把握しておくことが大切だと感じました。

価値をねらいすぎると、教師対子供になってしまい、最後の価値に落とすところまで、無理やりもって行ってしまいうことがよくあります。そうではなく、「伴走者として、子供と一緒に考える」ということを意識したいと思いました。